

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アスロンカケル児童発達支援		
○保護者評価実施期間	R7年 3月 1日		R7年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	R7年 3月 1日		R7年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的な運動療育支援 発達年齢や発達段階に合わせた支援 コーディネーショントレーニングを軸とした療育	・十分な運動量や運動の種類の確保 ・小学校入学を見据えた見る・聞く・待つなどの集団スキルの習得 ・運動の指導や補助の専門性を高める為の定期的な研修	・季節に合わせた知育・徳育の充実 ・個の発達段階に合わせた支援の拡充
2	療育クラスの種類の充実 ・小集団 ・集団 ・午前中療育クラス	・利用者や保護者ニーズに応じた療育クラスの案内 ・クラス数や特性に合わせた職員の配置	・2歳～3歳の未就学児やゆっくり運動能力を伸ばしたい子どもの為のクラスの開設 (R7年4月～) ・職員配置数の充実
3	イベント行事の充実 BBQ・スポーツフェスタ・成果発表会など	・子どもの体験の機会の場の提供だけでなく、保護者にも行事に参加してもらうことで、保護者間の交流の機会も提供している	・宿泊訓練の実施 ・地域イベントへの積極参加

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者間の交流	年に数回イベントを実施しているが、定期交流の場の提供が出来ておらず、イベントの参加者にも偏りがある	・定期的な意見交流・相談の場の提供 ・イベント企画の更なる充実
2	幼稚園・保育園等保育施設との連携	園での様子を見る機会・聞く機会が少ない	保護者に定期的に話をお伺いし、必要があれば園に連絡を取って話を聞く場を設けて情報共有を行う
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	アスロンカケル児童発達支援
------	---------------

公表日 2025 年 3 月 30 日

利用児童数

56 名

回収数 30

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	77.3%	22.7%			人数の多いクラスは場所が狭く、安全面が心配	グループに分けた活動や全員で実施するランニングなどはコーチがベースメーカーとなり、子ども同士がぶつからないように配慮する
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	81.8%	9.1%		9.1%	人数の多いクラスにはあと1名配置が欲しい	人材採用を継続して行う
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	86.4%	9.1%		4.5%	荷物の置き場所がない 遊置場が分かりにくい	荷物置き場の確保 利用者に分かりやすい配置換え
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	77.3%	22.7%				チェックシートを活用し、療育前後の掃除の徹底を行う
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	90.9%	9.1%			いつも子どものことをよく見てくれて、それぞれの子に対して適切な支援をしていると思う	それぞれの特性や年齢に応じた専門的な開わりができるよう、定期的な研修や職員間の意見交流を実施していく
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100.0%					引き続き、継続して実施していく
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	90.9%			9.1%	細かい支援計画を作成しており、今の課題が分かりやすい	より具体的な課題や目標が分かりやすい支援計画の作成を行っていく
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	86.4%	13.6%				課題やニーズに沿った計画の作成を行っていく
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100.0%				計画に沿った丁寧な支援をしていただき、子どもも楽しく通っています	成功体験の積み重ねが出来、自信や自己肯定感に繋がっているよう支援の質の向上が出来るようにしていく
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	81.8%		4.6%	13.6%		新しいプログラムや運動などを積極的に取り入れて内容がより充実したものになるようにする
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	45.5%	18.2%	13.6%	22.7%		地域や近隣施設との交流機会がない為、イベント等で交流出来る場を提供出来るようにしたい
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	95.5%	4.5%				契約時の丁寧な説明の徹底を行う
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	95.5%	4.5%				引き続き丁寧な説明を行う
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	50.0%	9.1%	4.5%	36.4%	保護者同士で情報共有したり、気軽に話が出来ると 場があれば嬉しい	保護者交流の機会が作れるよう、事業所間で計画し進めていきたい意向である
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	95.5%	4.5%		4.5%	日々の様子や課題をHUGや対面で細かく伝えてくださるので、安心してお任せしています	引き続き利用度時やHUGアプリを活用した共通理解の徹底に努めていく
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	77.3%	4.5%		18.2%		面談や助言などの時間を十分に確保出来るよう努めていく
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	95.5%	4.5%				利用者や保護者の意向を聞き取りながら支援を実施していく
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	31.8%	27.3%	4.5%	36.4%	定期的なイベントが開催されており、毎回楽しみにしている	イベントの拡充や内容の充実に向けていく
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	77.3%	4.5%		18.2%		子どもや保護者が相談しやすい雰囲気・環境作りを行い、周知していく

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	95.5%	4.5%				適切な方法で意思疎通や情報伝達が行えるよう努めていく
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	77.3%	9.1%	4.5%	9.1%		タイムリーなホームページの更新やイベント・空き状況の配信に努めていく
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	95.5%	4.5%				個人情報には鍵付き状態で管理し、取り扱いに十分に注意をして業務を行っている
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	59.1%	4.5%		36.4%		訓練は実施しているが、保護者周知・説明が不十分な点があるため、取り組みを見直していく
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	36.4%	9.1%	9.1%	45.4%		定期的に災害についての話や避難の仕方について話をしてはいるが、保護者周知が出来ていない為、送迎時や連絡ツールを射活用した周知を徹底していく
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	72.7%	4.6%		22.7%		定期的に災害についての話や避難の仕方について話してはいるが、保護者周知が出来ていない為、送迎時や連絡ツールを射活用した周知を徹底していく
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	72.7%			23.3%		怪我や体調の変化などがあった際は、速やかに保護者に連絡・報告をするよう引き続き徹底していく
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100.0%				アスロン大好きで、毎日でも行きたいと言います	楽しく安全に通所してもらえるよう、適切な環境と関わりを大事にしていく
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	95.5%			4.5%	毎回楽しみに通っています	楽しく安全に通所してもらえるよう、適切な環境と関わりを大事にしていく
	29	事業所の支援に満足していますか。	100.0%					子ども・保護者ともに満足してもらえる支援が行えるよう、引き続き内容の充実や保護者支援を拡充していく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 アスロンカケル児童発達支援

公表日 2025年 3月 30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	70%	30%	用具の整理整頓や置き場所の定期的な見直しを実施し、運動スペース最大限確保できるように工夫している	緩衝材やコンセントカバーなどの安全対策の強化
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	70%	30%	人数の多いクラスや配慮を要する児童がいるクラスなど、利用者の特性や人数に合わせて配置を行っている	利用者の特性や年齢に合わせた配置
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80%	20%	片付けの場所などは出来る限り固定し、子ども達が進んで片付けしやすい環境や出来るだけ広い運動場所の確保を行っている	柱や窓際などの安全対策の見直し
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	70%	30%	掃除のチェック表を作成し、日々の掃除に漏れがないようにしている 除菌スプレーやティッシュなどの衛生用品はすぐ取り出せる場所に配置している	子ども用の荷物の置き場所の確保
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	50%	50%	スタジオの他に個室がない為、必要に応じてスタジオの外やスタッフルームで対応出来るようにしている	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		定期的な事業所会議の実施と毎日のフィードバックを実施している	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		自己評価アンケートの結果を基に業務改善に取り組んでいる	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		日々のフィードバックや月1回の会議などで情報交換や意見交換を行い、業務改善に努めている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	80%	20%	同法人の療育事業部全員が参加する会議やイベント等で事業所間の交流を行い、その評価結果を業務改善に繋げている	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		月1回療育事業部の研修が実施されている 外部研修に可能な限り参加している	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		作成済みで公表されている	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	60%	40%	運動面については細かい目標の設定と計画の作成が出来ている	生活面や家族支援に関するアセスメントや個別支援計画の内容充実
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		日々のフィードバックや定期的な会議の中で個々の子どもの課題点を共有し、支援計画に反映している	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		日々のフィードバックや定期的な会議の中で個々の子どもの課題点を共有し、支援計画に反映している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		療育後に毎日フィードバックを行い、職員間で情報共有している	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		目標については、面談時に保護者と協議し、同意の署名をいただいている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		子ども達の課題や目標を明確にし、それぞれのクラスに合った支援が出来るよう、内容をクラスによって変えるなど工夫している	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		四季に沿ったプログラムや、子ども達のやりたいことを出来るだけ取り入れたプログラムの立案を行っている	

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		日曜日に小集団クラス、午前中に未就園児に向けた午前中療育クラス・午後からの集団療育クラスを開講し、選択出来るようになっている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		事前打ち合わせや療育後のフィードバックを毎日実施している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		日々フィードバックを実施している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。				
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。				
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	50%	50%	協力連携機関がある	協力関係機関の保護者周知の徹底
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	70%	30%	園と連携して支援会議を定期的実施したり、保護者からの相談を基に関係機関への聞き取りを実施している	保護者の意向を聞きながら相談支援の実施や就学に向けた相談の場をの設置する
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	50%	50%	必要に応じて関係機関と連絡を取り、情報の共有を行っている	関係機関との定期的な情報共有と課題の共通理解
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	60%	40%		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	60%	40%	スポーツクラブの子ども達と、年に数回合同でイベントを実施している	子どもが参加出来るイベントの回数を増やしていく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	80%	20%	療育後や送迎時に日々の様子を共有している	園迎え・園送迎の児童は保護者と直接情報共有出来る時間が少ない
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	40%	60%	家族で参加出来るイベントを開催している	積極的な実施には至っていない
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		アセスメントシートや保護者と事業所間での課題の共有などをしながら、支援計画の作成を行っている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	60%	40%		家族支援や相談支援が実施出来る体制作りを行う

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	40%	60%		定期的な開催に至っていない
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	70%	30%	マニュアルに沿った対応をしている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		月別の予定表や空き状況の配信・イベントのお知らせを定期的に配信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		個人情報は鍵付き什器で管理している	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	80%	20%		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%		地域住民の行事参加等は、積極的な実施には至っていないため、今後検討・対応していく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	60%	40%		紙面等を活用した保護者周知の徹底を行う
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		日々の業務前にアレルギーや疾患について確認を行っている	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	80%	20%		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		事業所間で定期的な研修を実施して理解を深めている	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		100%		組織的な決定はあるが、計画への記載はないため、今後対応していく	